

地球電磁気・地球惑星圏学会

SOCIETY OF GEOMAGNETISM AND EARTH, PLANETARY AND SPACE SCIENCES (SGEPSS)

<http://www.sgepss.org/sgepss/>

第211号 会 報 2012年5月7日

目	次
第26期臨時運営委員会報告	・・・・1
第26期第5回運営委員会報告	・・・・2
第131回総会開催のご案内	・・・・5
2012年秋学会特別セッションの募集	・・・・5
学会費納入についてのお知らせ	・・・・6
高速電力線搬送通信 (PLC) の屋外利用への 拡張に関する学会からの要望書の提出に ついて 家森俊彦、冨澤一郎	・・・・7
追悼 村山喬先生 前澤冽	・・・・8
学会HPのトップページ「SGEPSS トピックス & ニュース」掲載内容募集について	・・・・10
男女共同参画学協会連絡会 大規模アンケート のお知らせ	・・・・10
国際学術交流事業 (若手派遣) の報告 銭谷誠司	・・・・10
若手アウトリーチ活動 (STEPLE) の活動報告	
SGEPSS 若手アウトリーチワーキンググループ 佐藤由佳	・・・・11
「地磁気・古地磁気・岩石磁気研究会」 分科会報告 小田啓邦、木戸ゆかり、 畠山唯達、清水久芳、野木義史	・・・・12
平成23年度 Conductivity Anomaly 研究会 活動報告 大志万直人	・・・・13
「日本の考古地磁気学刷新をめざす基礎的 研究 第3回ワークショップ」の報告 畠山唯達、渋谷秀敏、石川尚人、山本裕二、 川村紀子	・・・・14
助成公募・学会賞・国際交流事業関係年間スケ ジュール	・・・・15
SGEPSS カレンダー	・・・・15
賛助会員リスト	・・・・16

第26期臨時運営委員会報告

日時：2012年1月30日 15:00～17:00

場所：TV会議

(親局＝東大地震研、子局＝宇宙研・産総研・
極地研・東北大・名大・京大・九大)

出席者：13名出席 (総数18名、定足数11名)

会長：家森俊彦、副会長：中村正人

運営委員：小田啓邦、塩川和夫、篠原育、清水久芳、
村田功、藤浩明、中村卓司、小嶋浩嗣、吉川顕正、
吉川一朗、長谷川洋

欠席：坂野井和代、長妻努、畠山唯達、山本衛、
尾花由紀

議事

1. 国際学術交流事業の審査 (清水)

- ・若手派遣事業一件、海外研究者招聘事業二件
の計三件の応募があった。
- ・議論の結果、若手派遣事業では福原始会員の
EGU派遣を全額補助し、招聘事業については
海老原祐輔会員 (招聘者：C. J. Roger氏,
NZ) と柴田一成会員 (招聘者：B. Tsurutani氏,
US) の JpGU への招聘申請をどちらも一部補助
(航空券代のみ支援) で採択する事とした。

2. 学会の将来構想について (塩川)

- ・冒頭、家森会長から学術会議の夢ロードマッ
プや昨年小改訂された大型マスタープラン
(次回の見直しは2013年) に対するこれまでの
SGEPSSの対応についての総括がなされ、学

会の総意が反映された将来計画を常に議論してゆく事の重要性が再確認された。

- その後、SGEPSS 各分野における将来構想策定の動きについて情報交換が行われ、惑星探査分野では2月末に惑星科学会と合同で会合を持つ予定である事、地球内部電磁気分野では3月上旬に有志が東京に集って将来構想を練る予定である事、また、4月上旬には新しく発足した分科会が中心となって将来構想も含むブレイン・ストーミングを行う事等が確認された。
 - 運営委員会としては、学会内のその他の分野にも将来構想を考える必要性を訴えると共に、次回3月末の運営委員会までに将来構想ワーキング・グループを立ち上げるべく、現在九つある全ての分科会にワーキング・グループ・メンバーを各1～2名推薦してもらう事とした。当面、各分科会からのメンバーに、IAGA・WDS・SCOSTEP・COSPAR・STPP その他の国際対応委員を加えた形で、ワーキング・グループを発足させる。また、来年度の共同利用研究集会公募に、SGEPSS 将来構想検討会(仮称)を応募する事とした。
3. EPS 関連 (小田)
- 編集長の選考委員を各学会から選出する時期に来ており、次回の運営委員会までに小田運営委員が選考委員候補者リストを作成し、運営委員会に提示する事になった。
4. 共催関係 (藤)
- 次の一件の協賛を承認した。
「第29回宇宙技術および科学の国際シンポジウム」(主催:第29回宇宙技術および科学の国際シンポジウム組織委員会/社団法人 日本航空宇宙学会)
開催期間:2013年6月2日(日)～6月9日(日)
開催場所:名古屋国際会議場
5. 次回運営委員会
- 3月26日10時～。場所は名大STE研。
6. その他 特に無し。

(藤 浩明)

第26期第5回運営委員会報告

日時:2012年3月26日(月) 10:30～17:00
場所:名古屋大学工学部IB電子情報館北館5階電気系会議室
出席者16名(総数18名、定足数11名):家森俊彦(会長)、中村正人(副会長)、塩川和夫、小田啓邦、清水久芳、村田功、藤浩明、中村卓司、小嶋浩嗣、山本衛、吉川顕正、吉川一朗、尾花由紀、長妻努、畠山唯達、長谷川洋
欠席:坂野井和代、篠原育

議事

1. 前回議事録の確認(第26期第4回、および臨時運営委員会)
 - 前回の議事録を確認し、承認した。
2. 協賛・共催関係(藤)
 - 以下の共催・協賛・後援を承認した。
(1)共催:「衛星設計コンテスト」(主催:財団法人日本宇宙フォーラム、日本機械学会、日本航空宇宙学会他)
開催期間:2012年4月～11月
開催場所:相模原市立博物館/JAXA宇宙科学研究所(11月10日の最終審査会会場)
(2)協賛:「第29回宇宙技術および科学の国際シンポジウム」(主催:上記シンポジウム組織委員会、社団法人日本航空宇宙学会)
開催期間:2013年6月2日～6月9日
開催場所:名古屋国際会議場
(3)後援1:「オーロラ講演会」(主催:各講演会の主催団体)
開催期間:2011年12月6日～25日
開催場所:全国各地
(4)後援2:「第8回SPIEアジア-パシフィックリモートセンシング会議」(主催:国際光工学学会(SPIE)、上記会議実行委員会)
開催期間:2012年10月29日～11月1日
開催場所:京都国際会館
3. 入退会審査(藤)
 - 以下の4名のシニア会員への移行を承認した。
三品正明、山本博聖、藤原玄夫、鳥居雅之
 - 以下の8名の退会を承認した。
高橋雅紀、吉田充夫、上野直子、杉山卓也、

- 青木豊（逝去）、齋藤和男、堀井雅恵、早川吉則
- ・ 会費長期滞納者7名の強制退会を承認した。
4. 名簿の電子化について（藤）
- ・ プロアクティブからMMB WEB名簿機能の提案があったが、費用が高いため、冊子体の名簿を継続することを決定した。フォーマットを変更してページ数を減らすことにより、冊子体印刷のコストを削減する。また、名簿記載の会員情報量を増やすため、会員にアナウンスする。
5. 会計関係（村田）
- ・ 前回の評議員会で、学会の財政状況が少額ではあるが赤字が続いており、会員数を増やす等の対策が必要であること、学生発表数が140件を超えているにもかかわらず、学生数が30名余りであることが議論となった。そこからの提案（学生会費を半分にすること、学生発表賞への選考参加を連動させること、学生非会員の参加費を高くすること）をふまえ、議論・検討を行った。学生発表者の全員が会員になったとしても、学生会費が半になると、収入増とはならないことを確認した（村田）。
 - ・ サポーター会員や学生会員制度等のあり方（会費、権利等）について議論を行う検討グループを運営委員会内に設置した（メンバー：中村副会長、小田、村田、畠山、山本）。
 - ・ 評議員会、運営委員会、総会で、学生に会員になっていただけるよう定期的にアナウンスする。
6. 名誉会員の推薦について
- ・ 名誉会員推薦の手続きとスケジュールを確認した。
7. 助成関係
- 7.1. 若手国際派遣（清水）
- ・ 2012年度スケジュール案が提示され、承認された。次回申請締切：H24 5/11。
- 7.2. 日本学術振興会賞の推薦（塩川）
- ・ 推薦すべき会員がいれば提案する（受付：2012年4月18-20日、2012/4/1付で45歳未満）。
8. EPS関係報告（小田）
- ・ これまでの経緯について、家森会長から説明があった：2012/3/5に5学会会長レベルでの会合を開催。2012年度秋に科研費募集（H25年度研究成果公開促進費（学術定期刊行物）；5年間のオープンアクセス電子ジャーナルスタートアップ予算）が文科省で検討されており、JpGUが当該予算への応募の事前検討を開始。新規応募予定のJpGU誌（オープンアクセス基本、e-journal；通常論文、レター、レビューを含む）へのEPSの合流を検討中。
 - (1) 2011年度出版状況・EPS科研費執行状況等資料に基づいて報告。2011年度の電子出版完了。テラパブのEPS Top Pageを更新。
 - (2) 4月1日からの電子投稿システムの導入について
 - ・ 4月以降に、メーリングリスト経由で会員へのアナウンスを予定。
 - (3) H25年度研究成果公開促進費（学術定期刊行物）などの動きについて（JpGUとEPS誌の関係）
 - ・ 資料に基づいて報告。JpGUは2011/12/1に公益社団法人化。
 - ・ JpGUはオープンアクセス誌を採用する（5年間のスタートアップ予算終了後の運営・出版費は著者および学会が担う）。JpGUから各学会（ジャーナル）に合流の呼びかけ。合流する場合はその方法について4月中にそれぞれ案を出すようにとのこと（2012/3/15に開催されたJpGU第1回科研費成果公開促進費対応臨時委員会）。
 - ・ 3/5の5学会会長レベルでの会合にて、出席者は以下の3点について合意した：(1) 学術定期刊行物への助成金に関する文科省の方針変更に対するEPSの対応については、5学会として連合の枠組みの中で検討を進める。(2) 5学会で協調して連合との話し合いを進める。(3) それぞれの学会で、この方針に沿って調整に努める。
 - ・ 上記の5学会会長による合意について確認を行い、この線で話を進めることについてSGEPSS運営委員会として合意した。SGEPSSとしては、EPSをJpGUに売り込んでいけるように、家森会長、中村副会長、小田委員経由でJpGUと調整していくことを確認した。
 - (4) 新編集委員長選考委員会委員（SGEPSSか

ら3名)の選出

- ・委員会委員として、小田、吉川顕正、山本の運営委員3名を選出した。

(5) 完全電子化移行・オープンアクセス・論文販売等ビジネスモデルに関する議論

- ・資料に基づいて報告と議論が行われた。年度の途中(2013年1月)での完全電子化には注意が必要(EPS科研費は冊子体販売が前提のため)。
- ・現状:出版から1年経ったらオープンアクセスが基本。

(6) SEGPESS 会員への論文投稿のお願い(呼びかけ)・振興策

- ・JpGUによるEPSの宣伝(HP、機関誌、ML、学会ブース)。EGUで宣伝いただく。
- ・SGEPSSのML・総会などにおける投稿の積極的な呼びかけ。IFの向上が必要。
- ・論文募集中の特集号がもうすぐ無くなるので、新たな特集号の企画をお願いします。

9. 学会の将来計画WGの設立について(塩川)

- ・学会将来構想WGを設立し、外部に発信していくための、学会の将来構想をまとめた文書を2012年度中に作成する予定。WGメンバーの候補22名が提示され、これに家森会長、塩川総務、山本委員、吉川顕正委員を加えることにより、WGとする事とした。また各分科会・国際関連委員会に正・副メンバーを決定してもらう事とした。
- ・5月の連合学会までに会合を開催、また秋学会で関連特別セッションを開催予定。

10. 秋学会関係(中村卓司)

- ・10月20日(土)～10月23日(火)、札幌コンベンションセンターにて開催予定。19日の午後に記者発表、夕方に運営委員会、20日の午後にアウトリーチ、21日に評議員会、22日に総会を予定。
- ・スケジュール:2011年度よりも2週間早く開催されることをふまえて計画。予稿投稿締切7/20(金)を予定。
- ・秋学会投稿システム:相見積もりによる価格交渉を行う。
- ・LOC:大会委員長:茂木透会員、実行委員長:渡部重十会員、ほか。
- ・アブストラクトのCD-ROMの廃止について:

2011/11/04の評議員会での意見(学会講演会のアブストラクトのCD-ROMはJpGUではもう廃止している。Webでとれば十分なので、SGEPSSでも廃止を検討してはどうか?ただし、投稿承認の証拠になるので、Webはずっと維持しなければならない。あるいは会場ですべてファイルをダウンロードできるようにしてはどうか?)をふまえ、議論を行った。CD-ROMプリント費は10万円程度と安く、CD購入希望者もいるため、CD-ROMを継続することを決定した。これとは別に、秋学会予稿集をSGEPSSのHPに登録する。

- ・保育室等:2011年秋学会では保育室(会場外)とは別に、会場内に休憩室を設置。子連れの方などが授乳などで自由に使えるようにした。2012年度も可能かどうか、調査が必要。

11. アウトリーチ活動について(畠山)

- ・2011年度秋学会アウトリーチイベント:255人の参加。ポストファクトレポートを作成し、関係方面へ配布した。また、科研費報告書、後援してくれた機関への提出済。
- ・2012年度の予定:札幌市青少年科学館:講演会会場から30分程度。タイトル:「聞こえてくるよ。地球の鼓動～電流と磁場でさぐる地震・火山～」。
- ・若手有志アウトリーチWG(STEPLLEすてっぷる)が紹介された。
- ・衛星設計コンテストについての報告(長妻)審査会が昨年11/12に開催された(審査員:田口会員、実行委員:家森会長、長妻委員、企画委員:中田会員)。高知高専がSGEPSS賞を受賞。審査員長の小山会員から提案された、受賞者の秋学会参加(ポスター発表や聴講)の可能性について議論が行われた。

12. 男女共同参画関係について(尾花)

- ・3/22に開催された男女共同参画学協会運営委員会について、資料に基づいて報告。
- (1) 女子中高生夏の学校について:2011年度は震災の影響で規模を縮小して実施したが、2012年度は通常通り行う方向で調整中。
- (2) 第3回大規模アンケートについて:現在、質問項目の精査を行っている段階で、実施時期は未定。アンケート調査について、学会員に周知するため、会報にお知らせを掲載する

する。

(3) 要望書について：第9期運営委員会のまとめとして、内閣府各部署や国会議員等へ送る「要望書」を取りまとめている。SGEPSSは男女共同参画担当の運営委員+木戸会員の間で議論を行った結果、非賛同とした。

1 3. Web・メーリングリスト関係 (小嶋)

- sgepssbb 掲示板へのいたずら投稿が増加したため、掲示板のリンクアドレスを変更。
- HP トップページ：2/17に正式運用を開始。紹介画像募集のアナウンスを会員に再度出すこととした。

1 4. 広報 (吉川一朗)

- 資料に基づいて報告。次号会報の会員到着は5/7(月)以降(JpGU連合大会前)。
- 学会員の書いた本の書評や出版情報を、会報やHPで折に触れて紹介する事とした。

1 5. 長谷川・永田賞選考委員会委員について(家森)

- 長谷川・永田賞の推薦書類1件の提出があった。内規に基づき、選考委員会委員として、清水、中村卓司、長谷川の3名を選出した。
- 今後の予定：推薦書類の内容を確認、評議員会に推薦するかどうかを決定し、選考委員長は5月の連合大会中の評議員会で報告、評議員会で議論し承認する。

1 6. 学会内規の改定について(村田)

- 招聘外国人 Craig Rodger 氏に旅費を振り込む際の銀行手続に問題が発生したため、内規に学会事務局プロアクティブの住所を記載することとした。

1 7. JpGU 連合大会期間中の運営委員会等(藤)

運営委員会 5月20日(日) 17:15～20:30
202室

評議員会 5月22日(火) 18:30～20:30
202室

総会 5月23日(水) 12:30～13:30 303室
(長谷川洋)

第131回総会開催のご案内

第131回総会を以下の日時に開催します。

開催日時：5月23日(水) 12:30-13:30

開催場所：幕張メッセ国際会議場3階303号室(日本地球惑星科学連合2012年大会会場)

EPS誌の将来について、学会賞授与などの重要な議事がありますので、会員の方はぜひご出席ください。やむを得ず欠席される場合には、事前に同封の委任状を会長宛てに郵送いただくか、運営委員にお渡しください。また、電子メールでの委任状受領ができます。詳細はメーリングリストにてお知らせします。

(塩川和夫)

2012年秋学会特別セッションの募集

2012年秋学会(10月20日～10月23日)の講演会開催に向けまして、「特別セッション」のご提案を広く会員の皆様から募集致します。「特別セッション」の詳細は下記の通りです。次の内容を添えてご応募下さい。

1. コンビナー：お名前、ご所属、ご連絡先
2. セッションタイトル(日本語および英語)
3. セッション内容説明
4. 特別セッションとして行う意義
5. セッションの規模(参加見込人数)

応募先：sgepss26_fm@nipr.ac.jp

締切：2012年5月18日(金) 17:00

ご応募頂いた提案は、運営委員会で検討した後、結果を会報やホームページ等で周知させて頂きます。多数のご応募をお待ちしております。尚、ご質問等は運営委員会・秋学会担当委員までご連絡下さい。

(秋学会担当運営委員：中村卓司、藤浩明、篠原育)

記

○「特別セッション」について

学会及び秋の講演会の活性化を図るために、秋学会では「特別セッション」を設けています。「特

別セッション」は、次のような内容を議論する場として位置づけられています。

- ・レギュラーセッションとは別枠で議論する話題性のある内容（時機にあった話題、重要テーマなど）
- ・当学会内、また他学会も含めたような、分野横断的な内容

特別セッションでは、講演数の制限を緩め、レギュラーセッションと重複した講演申込も可能となっています。これまで開催された特別セッションは以下の通りです。

- ・2004 年秋：「宇宙天気」
- ・2005 年秋：「宇宙進出と STP 科学の接点」
「SGEPSS における小型衛星の可能性」
- ・2006 年秋：「地上－衛星観測・データ解析・モデリングの統合型ジオスペース研究に向けて」
「地球惑星磁気圏探査：将来計画～これからの黄金の 20 年とするために～」
- ・2007 年秋：「STE 研究における地上ネットワーク観測の現状と将来展望」
「SGEPSS 創立 60 周年記念特別セッション：地球電磁気学の歩み」
- ・2008 年秋：「南極昭和基地大型大気レーダーによる超高層大気研究の新展開」
「地震学と地球電磁気学の境界領域研究」
- ・2009 年秋：「月周回衛星『かぐや』観測による STP 研究の新展開」
- ・2010 年秋：「SGEPSS における最新の月科学：『かぐや』から次の時代へ」
- ・2011 年秋：「電離圏変動と地震の関係」

以上

学会費納入についてのお知らせ

2012 年度学会費納入の案内が届いていることかと思いますが、所定の方法によってお支払い頂きますよう、お願い申し上げます（納入期限：7 月 31 日）。学会の様々な活動を支える財政基盤は会員の皆様に納入して頂く会費にあり、未払いがありますと健全な学会運営に重大な支障

をきたします。督促作業には経費とともに人的コストが相当かかりますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

なお、学生会員の会員種別確認のための更新手続きの期日が 3 月末日までとなっております（毎年更新手続きが必要です）。手続きをされていない学生会員には一般会員扱いの納入案内が発行されていますので、まだ手続きをされていない場合は至急お手続きをお願いします。

当学会の会費納入は以下の 5 つの方法よりお選びいただけます。

- (1) 銀行振込（校費払いも可能）
- (2) 銀行口座自動引き落とし（7 月下旬に引き落とし予定）
- (3) クレジットカード払い
- (4) コンビニエンスストアでの支払い
- (5) 春・秋学会開催時の受付窓口での支払い（現金のみの取り扱い）

学会費の支払い方法変更については随時受け付けておりますが、基本的には翌年の支払い時から有効となります。もし今年度の学会費支払い方法を変更されたい場合は至急事務局 (sgepss@pac.ne.jp) にご連絡ください。

銀行口座自動引き落とし、およびクレジットカード払いについては、学会が手数料を負担します。毎年のお支払いの手間をはぶくには、銀行口座自動引き落としが便利でお勧めです。ご希望の方は書面による手続きが必要となりますので、郵送しました納入案内をご参照くださるか、または事務局へお問合せください。

平成 24 年度の連合大会においても、学会受付デスクに会費支払い窓口を設けます。開設予定は、5 月 22 日（火）の午後、23 日（水）の全日、および 24 日（木）の全日（ただし最終日は 16 時頃まで）です。

（会計担当運営委員：村田功・小嶋浩嗣）

高速電力線搬送通信 (PLC) の 屋外利用への拡張に関する 学会からの要望書の提出について

当学会は平成 14 年に、「電力線搬送通信 (PLC) に使用する周波数帯域の拡大に関する要望書」を総務省に提出し、PLC が短波帯の観測に有害干渉をもたらす事に強い懸念を表明いたしました(会報 176 号参照)が、残念ながら総務省は平成 18 年に屋内利用に限定した PLC の技術基準を策定し、その利用を解禁しました。今回、PLC 設備の屋外利用について総務省で検討が進み、技術基準が策定されつつあり、短波帯の観測への屋内利用とは比較にならぬほどの深刻な影響が予想されることから、天文学会理事長、今井一雅会員(高知高専)、富澤一郎会員(電通大)および電波天文観測バンドの周波数保護に携わる国立天文台の関係者と共に、2月29日午前に総務省に出向き、天文学会と以下に掲載します SGEPS からの要望書(川端達夫総務大臣宛に加え、電気通信審議会、電気通信審議会技術分科会と電波監理委員会宛の3通のコピー)を両学会それぞれから電波環境課長に手渡し、その後、15分程度、電波環境課長と意見交換をしました。午後には、両学会共同で記者会見(8社の記者が参加)を開き、声明文を発表すると共に、今井、富澤両会員から記者に対し詳しい説明を行いました。資料の準備および天文学会との調整・連絡については、土屋史紀会員(東北大)が原案作成を担当しました。提出された要望書は、その後開かれた PLC 作業班で作業班参加者に配付されたとのことですが、今後の成り行きと共に、既に普及しつつある屋内利用の場合の漏洩ノイズの拡大についても注意を払って行く必要があります。

(家森俊彦)

PLC の屋外利用の問題点について

短波帯は本学会の重要分野である電離圏や惑星・太陽・銀河電波の観測に使用され、観測点の多くは人工雑音の少ない静穏な場所に設置されています。短波帯では、距離減衰が小さく、かつ電離層反射により遠方伝搬することから、微弱な放射であっても観測の妨害となる可能性

があります。PLC は、高周波伝送を目的としない配電線に無理やり短波帯信号を重畳させることから漏洩電波を発生しやすい有線通信方式です。この PLC からの漏洩電波による観測妨害発生を危惧し、当初より実証に基づく基準策定を求めてきました。平成 18 年に策定された PLC 技術基準では、建物の減衰を見込んだ場合のみ許容レベルに収まるよう PLC 送信レベルを規定し、この技術基準に基づく仕様の PLC モデムの屋内使用のみが許可されました。しかし、わずかな実験に基づいた基準のため信頼性が不十分でした。実際、土屋史紀会員らの市販 PLC モデムを使用した妨害レベル測定実験結果では、上記基準を超える妨害レベルとなり、許可された屋内仕様の PLC モデムであっても観測の妨害となり得ることが分かってきました。このような問題が残る状況において、同じ仕様のモデムを、何の対策もなしに屋外架設配電線部分へ拡張利用する今回の提案では、建物減衰が期待できなくなることから、漏洩放射発生は明らかなことです。よって、観測妨害発生の可能性の非常に高くなる今回の提案は、受け入れ難いところです。信頼性の高い実証実験に基づき、妨害発生の恐れのない新たな PLC 仕様を策定するか、進歩の著しい無線 LAN などの通信方式で代替することを求めます。

(富澤一郎)

高速電力線搬送通信 (PLC) の 屋外利用への拡張に対する要望書

地球電磁気・地球惑星圏学会
会長 家森俊彦

現在総務省で検討されています高速電力線搬送通信 (PLC) 設備の屋外利用について、地球電磁気・地球惑星圏学会は深刻な懸念を表明するとともに、短波帯への漏洩抑制の技術基準が不十分な状態での PLC の利用を拙速に推進しないよう、強く要望いたします。

全国の大学・高専および研究機関に所属する多くの研究者を中心に構成される本学会は、1947年に創設され、以来、地球内部の電磁気学、大気圏から電離圏・熱圏・磁気圏さらには太陽、太陽系の彼方に至る宇宙空間の探査・研究にお

いて、世界をリードする活動を行ってきました。これらの学術研究活動では、100年スケールの地磁気変化から通常の電磁波、光、さらにはガンマ線に至る幅広い周波数帯の電磁場観測が、研究の基礎的手段となっています。

PLCで用います短波帯の周波数領域(3MHz～30MHz)では、60年以上の歴史を有し、現在も情報通信研究機構(NICT)で行われています電離層の基礎的定常観測の他、GPSの測位精度に影響を与える電離圏擾乱の観測、地震や火山噴火の研究、電離大気による地球環境変動のモニター、木星や太陽から放射される電波の放射機構の解明、さらには太陽系外のパルサーやブラックホールの観測研究などが進められています。国際電気通信連合(ITU)は、短波帯に二つの電波天文保護バンドを設け、天体からの微弱な電波の観測を保護しています。当学会では、PLCからの漏洩電界によるこれら短波帯を用いた観測研究への壊滅的被害の発生を懸念します。

当学会は平成14年6月10日付けで、「電力線搬送通信(PLC)に使用する周波数帯域の拡大に関する要望書」を総務省に提出し、PLCが短波帯の観測に有害干渉をもたらす事に強い懸念を表明いたしました。残念ながら総務省は平成18年に屋内利用に限定したPLCの技術基準を策定し、その利用を解禁しました。その結果市販されるようになったPLCモデムを使用した、当学会会員による漏洩電波の実測結果によれば、平成18年の情報通信審議会の答申において、短波帯の既存無線業務を保護するために基本方針とした漏洩電界強度の想定値の10倍に達する雑音の発生が確認されています。また、短波放送の受信においても大きな雑音となる例が報告されています。これら事実は、現在のPLC技術基準では電波の漏洩を十分に抑制できない事を示しています。

こうした状況にもかかわらず、現在、情報通信審議会情報通信技術分科会電波利用環境委員会では、屋内と同じ技術基準によるPLCの屋外利用への拡張が検討されています。屋外利用では、建物の壁による遮蔽効果が期待できないため、更に強い漏洩電界が発生することは火を見

るより明らかです。加えて、短波帯の電波は、地表波や電離圏での反射により、地上から見通せない遠方へ伝搬する特徴があり、今後、広域に普及したPLC設備からの漏洩電界の集積効果によって、市街地から離れた短波帯観測施設でも、観測環境が壊滅的な影響を受けることが強く懸念されます。

以上、短波帯における学術研究の重要性和、それに対するPLCの影響の重大性に鑑み、現在検討が進められているPLCの屋外利用の検討に強い懸念を表明するとともに、PLCと短波帯電波観測による学術的研究との共存が可能となるよう、現状の技術基準を再検討頂き、PLCの屋外利用を拙速に推進しないよう、再度強く要望いたします。

追悼 村山喬先生 前澤洌

名古屋大学名誉教授の村山喬先生は、昨年(2011年)12月14日にご逝去されました。享年82歳でした。村山先生は、名古屋大学理学部物理学科のご出身で、同学部宇宙線望遠鏡研究施設に数年間所属された以外は、学生時代から退職されるまでずっと同物理学科を拠点にご活躍になりました。理学では地球物理系や地球惑星学系の研究者の多い本学会において、少し異色なご存在だったかも知れませんが、先生のご研究は、純粋物理のバックグラウンドの上に地球物理的データ解析手法を重ねたユニークなものでした。

先生のお仕事は大きく分けて、宇宙線の研究と太陽地球系物理の二つに分かれます。先生が物理の大学院に進まれたころ、宇宙線の異方性を観測する望遠鏡(1号、2号)が作られ、宇宙線の点源が発見されて注目を集めていました。先生は、新設された理学部宇宙線望遠鏡研究施設(STE研の宇宙線部門の前身)で、高精度の異方性観測を目指す大型(直径4m)チェレンコフ望遠鏡の建設に加わり、この望遠鏡の光学系のリーダーとして計画を推進されました。当時気体チェレンコフ望遠鏡は実験室内での試行段階にとどまっていたのですが、先生は、

多くの困難を排して、1,200個に及ぶ小反射鏡を製作設置して、この大型チェレンコフ望遠鏡を成功に導きました。宇宙線点源はその後消滅したものの、この望遠鏡は、高エネルギー宇宙線の異方性とモデレーションに関して数々の研究成果をもたらしました。

先生が、太陽地球間プラズマ物理の問題へと興味を移していかれたきっかけは、1964年から約2年間シカゴ大学エンリコフェルミ研究所で米国のIMP-1衛星（磁気圏尾部を発見した衛星）に搭載した高エネルギー粒子データの解析にあたられたことでした。先生は、シカゴ大の宇宙線グループが搭載した高エネルギー(>160keV)電子観測器のデータを調べ、磁気圏尾部の磁気中性面のまわりに高エネルギー電子が集中していることを見いだされました。これは、磁気中性面の重要性を示すもので、尾部プラズマシート研究のさきがけともいえました。同時に、中性面の位置が地磁気双極子の太陽方向への傾角に依存する経験式を作られました。この式に基づく座標は村山座標ともよばれて他の研究者にも利用されました。後になって、私は先生が大きな紙(A2くらい?)に、高エネルギー電子のデータと衛星磁場および地磁気データをプロットしたものを見せていただいたことがあります。先生が実に丁寧に何枚も何枚も書き込んでおられたことに心が打たれると同時に、高エネルギー電子の出現条件についてその図からさらに何かわかりそうな(村山先生が感じたであろう)臨場感がおそってきて、どきどきした記憶があります。

同時期の磁気圏物理の大きな話題は、惑星間空間磁場(IMF)の南向き成分(B_s)の影響の発見です。先生は、 B_s 以外の太陽風パラメータへの依存性やその関数形などにつきもっと精密な解析が必要だと思われたようです。IMFが連続して南向きの期間のサブストームについて、個々のケースのタイムラグを決めて時間積分量を作るという独自の方法によって精度を上げ、(1)IMF B_s の時間積分と、対応するオーロラ電流(AE)インデックスの積分の間に非常に高い線形の関係がある、(2)その比をとって B_s への依存性を消去すると、残りの因子は太陽風速度Vの二乗に比例することを見出されました。この結果は、他の研究者によって追認されましたが、単純な理論予想(Vに線形)

に反する結果でした。(説明できる理論がないためにこの重要な結果が先生の存命中にあまり議論されてこなかったのは、まことに残念です。)

先生は、リングカレントについて太陽風圧力の影響を明らかにすると同時に、地磁気活動の原因をさらに太陽面へとさかのぼり、太陽黒点の南北非対称性と地磁気活動度の年変化(春秋非対称)の関係や、SI(地磁気インパルス)を引き起こす太陽フレア活動の太陽面南北非対称性の関連について興味深い結果を得られています。

先生は、これらの研究を通じて、太陽地球間を結ぶ惑星間空間の重要性を強く意識され、物理学科に惑星間空間物理学研究室を創設されました。(ちょうど就職先を探していた私が助手に選ばれました。)このころ先生が書かれた教科書「宇宙物理学」のうち約1/3は惑星間空間と題した章に当てられていて、大学院時代にIMP-1の太陽風磁場データを解析した私にはひどくうれしく映りました。コンパクトな中に太陽地球物理から宇宙線、銀河系空間物理に至るまでが自然に展開された好著だったのですが、今図書館でしか見られないのはまことに残念です。

先生を始め先生の年代の研究者は、地球磁気圏の人工衛星観測の黎明期のデータに最初に手を触れた幸せな方々だったような気がします。現在の私たちは、大量のデータに囲まれてはいませんが、先駆者の鋭い感覚を見失っているような気がします。このあたりを先生に一度ご意見を伺ってみたいと思いつつも、長期にわたるご入院で機会を逸してしまいました。音楽好きの先生の御宅にうかがって、音楽に造詣の深い奥様とともにお話を伺ったころのことを思い出しながら、先生のご冥福を心からお祈りいたします。



惑星間空間磁場セクター構造の発見者Wilcox先生夫妻が名古屋を訪れた時のひとこま(左より村山先生、Wilcox先生、村山夫人、Wilcox夫人)

学会 HP のトップページ 「SGEPSS トピックス & ニュース」 掲載内容募集について

SGEPSS HP (<http://www.sgepss.org/sgepss/>) のトップページに、「SGEPSS トピックス & ニュース」のコーナーを開設いたしました。SGEPSS の活動を一般の方々にもわかりやすく印象的に示していくことを目的としたコーナーです。ここでは、下記のような内容について、会員の皆さんからの投稿をいただき掲載をしていきます。

- ・SGEPSS 会員による最新の研究活動・成果公開
- ・SGEPSS 会員による各種イベントのお知らせ・開催報告
- ・SGEPSS の歴史などの紹介

会員の皆様からの情報提供をよろしくお願ひしたいと思います。具体的な投稿方法や規定については、下記のページを参照ください（画像データとテキストをいただければ、運営委員の方でレイアウトしてホームページに掲載します）。

<http://www.sgepss.org/sgepss/toukou-kitei.html>

また、投稿内容の送付、および、投稿に関するお問い合わせは、web_topics@sgepss.org まで、よろしくお願ひいたします。

SGEPSS としては、初めての試みであり運営にあたっては、しばらく試行錯誤的な部分も続くかと思いますが、会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願ひしたいと思います。

(Web・ML 担当運営委員：
小嶋浩嗣、中村卓司、吉川顕正)

男女共同参画学協会連絡会 大規模アンケートのお知らせ

2012 年度に、男女共同参画学協会連絡会（学協会連絡会）の大規模アンケートが行われる予定です。詳しい日程は未定ですが、アンケート

開始のアナウンスを受け取られましたらもれなくご回答下さいますよう、ご協力をお願いいたします。

学協会連絡会は、科学技術分野における男女共同参画の推進、女性と男性が共に個性と能力を発揮できる環境づくりとネットワーク作りを目的とした、理工学系の学会・協会の連携協力組織です。毎年「女子高校生夏の学校」「学協会連絡会シンポジウム」を開催するほか、様々な調査、提言等を行っています。SGEPSS は 2003 年 7 月からオブザーバー参加し、2005 年 4 月に正式加盟しています。

学協会連絡会の大規模アンケートは、第 1 回が 2003 年、第 2 回が 2007 年に行われ、今回が第 3 回目になります。これまでに 2005 年度の男女共同参画白書に調査結果が掲載されたほか、我が国の様々な基本計画・事業にも反映された実績のある、重要な基礎調査資料となっています。身近なところでは RPD 制度の導入などが挙げられます。

これまでのアンケート調査結果報告等は、すべてウェブ上で公開されておりますので、ご覧下さい。<http://annex.jsap.or.jp/renrakukai/enquete.html>

(男女共同参画担当運営委員：
尾花由紀・長妻努・坂野井和代)

国際学術交流事業（若手派遣）の 報告 銭谷誠司

この度、国立学術若手派遣事業の援助を頂いて、2011 年 12 月 4 日に行われた GEM mini workshop と、2011 年 12 月 5 日から 9 日まで行われた AGU fall meeting に参加しました。貴重な機会を与えて下さった学会関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

私は 12 月 6 日午後の磁気圏物理・磁気リコネクションのポスターセッションで「The electron-frame dissipation measure in collisionless magnetic reconnection」というタイトルで発表しました。

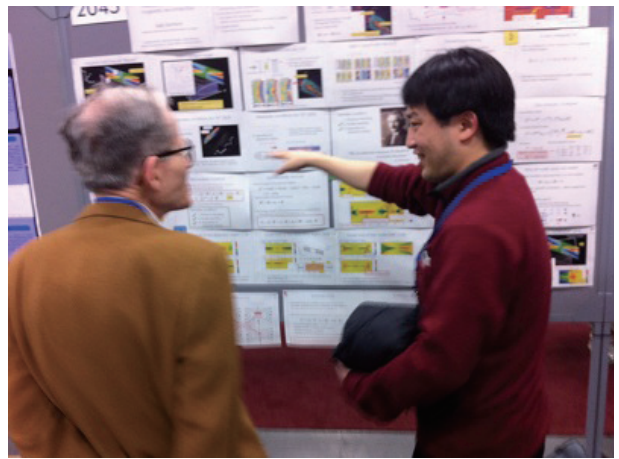
無衝突磁気リコネクションでは、磁力線が繋ぎ変わる X 点付近に、プラズマの理想凍結条件

が破れる「磁気拡散領域」が存在します。そして、この領域の物理がリコネクション系の大局的性質を左右します。ところが最近、シミュレーション研究が進むにつれて、プラズマの非理想条件と磁気拡散領域の対応関係がよくわからなくなってきたのです。そこで我々は、電子流体系でのジュール散逸を「電子系散逸量」として定式化し、これを使って重要領域を判定することを提案しました。

この発表は、5年間、研究者を悩ませてきた問題を解決し、リコネクションの重要領域を再定義するという一方で、対抗グループを含む多くの方々に興味を持っていただきました。セッションタイム中は休む時間はありませんでしたし、時間外にも多くの方に声をかけていただきました。AGUには何度も参加していますが、このようなことは初めてです。磁気圏観測グループの方々とは電子系散逸量の計測の可能性（現行衛星では難しいが、次世代MMS衛星では最優先事項）について、シミュレーション研究者とは理論背景について、有意義な議論をすることができました。また、さっそく我々の理論を使って、シミュレーション結果を解析しているグループがいたことは予想外の驚きでした。

磁気リコネクションの関連セッションでは、昨年まで活発に議論されていた2次元「磁気島」に代わって、3次元に磁力線が捻れた「flux lobe」という言葉が飛び交っていたことが印象的でした。派手なシミュレーション研究に加えて、磁気圏衛星観測でも3次元構造が議論されており、いよいよ本格的な3次元研究時代がやってきたように思います。このような研究の流れは、私自身の今後の研究の方向性を考えるうえでも、良い刺激になりました。

最後に、繰り返しになりますが、今回の海外出張をご支援下さった学会関係者の皆様に心からお礼を申し上げます。今後もこの事業が継続されて、多くの若手研究者の方々にチャンスが与えられることを願います。



若手アウトリーチ活動（STEPLE）の活動報告

SGEPSS 若手アウトリーチ
ワーキンググループ 佐藤由佳

本活動は、「もっと若手が積極的にアウトリーチ活動に関与し、学会のアウトリーチ活動を活性化させたい」という想いから、平成22年にスタートした【大学院生を含む若手学会員有志による出前授業】の活動です。大学院生などの若手自らが母校や近隣校などへの出前授業を企画・実施し、SGEPSSの研究分野や広くは「研究」「科学」の魅力などを小中高校生や一般の皆様へ伝えていくことを目指しています。本活動の愛称である“STEPLE（すてっぷる）”は、“Space, Terrestrial and Planetary Lectures”の頭文字をとったもので、「手に届く宇宙☆地球科学レクチャー」を合言葉に活動を行っています。平成23年度は、以下3件の出前授業（実施場所、実施者、実施日、共催）を実施し、合わせて約410名の一般の皆様にご参加頂きました。

1. 近畿大学附属和歌山高等学校（和歌山県）、細内麻悠（東京大）、2011年12月12日
2. 仙台市天文台（宮城県）、田所裕康（東北大）他2名、2011年12月25日、共催：全国オーロラ講演会2011（オーロラ3Dプロジェクト）
3. 新潟市中央図書館（新潟県）、佐藤由佳（東北大）、2012年2月18日、共催：全国オーロラ講演会2011（オーロラ3Dプロジェクト）・公民館サイエンスカフェ（新潟市東地区公民館）

また、STEPLE のとりまとめは有志のワーキンググループ (WG) により行われています。2012 年 3 月現在、WG は 21 名の大学院生及び若手研究者の有志から構成されています。WG では、授業実施者と協力して出前授業の調整や広報を行う他、出前授業を通じて実施者が得た経験やノウハウを、新たに出前授業を企画する方々と共有して頂くために、出前授業資料等のアーカイブ化及び関係者限定公開を進めています。これにより、より多くの若手学会員がアウトリーチ活動に参画しやすい環境を整えることを目指しています。また、平成 23 年度に実施した WG の主な活動と WG メンバーをご紹介します。

- ウェブページ (<http://www.sgepssorg/~syoweb/>) の整備完了
- WG 会合を JpGU 及び秋学会会期中 (2011 年 5 月 27 日と 11 月 4 日) に実施
- 学会員及び宇宙地球惑星科学若手会への活動周知 (各 ML への案内、若手会夏の学校におけるポスター発表)
- WG メンバー (2012 年 3 月現在): 堺正太朗 (北大)、宇野健、北村成寿、栗田怜、佐藤由佳、田所裕康、西村由紀夫、益永圭 (東北大)、白川慶介、高木聖子、福田陽子、細内麻悠 (東大)、望月香織 (東京学芸大)、坂口歌織 (NICT)、鈴木秀彦 (NIPR)、木村智樹 (ISAS)、寺本万理子、原拓也 (名古屋大)、秋谷祐亮、原田裕己 (京大)、森永隆稔 (高知工科大)

なお、活動の詳細については、上記のウェブページ (学会 HP 中の「一般向け学会活動紹介」のページ中にリンク有) をご覧頂ければ幸いです。学会員の皆様、特に各機関の指導教員や上司の皆様におかれましては、STEPLE の活動へのご理解を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。また WG では、出前授業企画希望者や WG への新規加入希望者を随時募集しております。これらの希望届を含め、STEPLE に関するお問合せ・ご要望等は、WG 事務局 syo-info@googlegroups.com までお願い致します。



「地磁気・古地磁気・岩石磁気研究会」 分科会報告

小田啓邦、木戸ゆかり、畠山唯達、
清水久芳、野木義史

SGEPS 秋学会の講演会場において分科会会合を開催したので報告をいたします。

「地磁気・古地磁気・岩石磁気研究会」
日時：11 月 4 日 (金) 12:30-13:20
場所：D 会場 (神戸大学文学部 C 棟 3 階 C361)

JpGU2012 での以下 2 つの分科会関連セッションについてコンビーナから紹介があり、積極的な投稿の依頼があった。

- (1) 「磁気層序・微化石層序-高精度年代法に向けて」コンビーナ：兵頭政幸・佐藤時幸・畠山唯達。
- (2) 「地磁気・古地磁気・岩石磁気」コンビーナ：高橋太・星博幸。

今年度の夏の学校の報告が熊本大学の望月会員から報告があった。来年度の夏の学校は兵庫県立大の井口会員を世話人として、山陰ジオパーク (玄武洞) 近辺で行う予定との連絡があった。

山崎会員から IODP の現状および乗船者募集について連絡があった。また、島会員からモホール計画 (モホ面到達掘削計画) への協力依頼があった。

山本会員から高知コアセンターでの共同利用の詳細な説明と、積極的な利用申請依頼があった。大学院生の利用申請書は指導教官によるチェックをお願いするとのことであった。

分科会HPの現状・今後の展開等について、畠山会員から紹介があった。HPを記述・編集して下さる方を募集しているので、是非ご協力下さいとのこと。

G-cubedの2つのテーマについて小田会員と山崎会員から紹介があり、投稿の呼びかけがあった。

(1) "Magnetism From Atomic to Planetary Scales: Physical Principles and Interdisciplinary Applications in Geo- and Planetary Sciences"

Theme Editor(s): J. Feinberg, S. McEnroe, B. Moskowitz, H. Oda, M. Purucker, A. Roberts

(2) "Studies of Seamount Trails:

Implications for Geodynamic Mantle Flow Models and the Geochemical Evolution of Primary Hot Spots" Theme Editor(s): A. A. P. Koppers, T. Yamazaki, C. Beier, T. Watts

2012年8月13-17日にシンガポールで開催のAOGS-AGU (WPGM) Joint Assemblyについて紹介があり、セッション提案・予稿投稿の呼びかけがあった。(その後、小玉会員をCo-convenorとして"Contribution of rock and mineral magnetism to the characterization of environmental change and the effect of natural and human activities to it"のセッション提案があった。3/21に投稿~~不~~切)

小田会員からEPS投稿依頼があり、EPS賞(35歳以下、年1件、副賞30万円)、およびe-letter(4ページ;オープンアクセス、カラーページチャージなし、投稿から出版まで2ヶ月)についてあらためて紹介があった。あわせて、EPS誌掲載論文引用のお願いがあった。

平成23年度 Conductivity Anomaly 研究会 活動報告

大志万直人

1. 平成23年度 Conductivity Anomaly 研究会の開催

平成23年度の Conductivity Anomaly 研究会は、東京大学地震研究所・共同利用研究集会「地

震・火山噴火予知のための地球電磁気学の新展開 — 海域・陸域およびその境界域での3次元構造探査の高度化とモニタリング —」(2011W-09)(研究代表者:大志万直人)として、平成23年12月13日~14日の期間に地震研究所で開催された。研究会は、「火山活動域での電磁気観測研究」、「地殻活動帯での電気伝導度構造研究I」、「地殻活動帯での電気伝導度構造研究II」、「海域での電磁気観測」、「東北太平洋沖地震に関連した電磁気現象」、「地球電磁気学諸問題」の計6つのセッションの構成で、2日間の延べ人数99名の参加者があり、発表はすべて口頭発表で26件であった。各講演時間20分(質問等の議論の時間を含む)と充分余裕をとったプログラム構成としたため、終了後、ゆったりと議論の時間がとれた良い研究集会であったとの感想が多くあり、研究集会として有意義なものであった。なお、研究会では、「特別講演」として行武毅東大名誉教授に「乗富先生とCA研究」と題した講演を行っていただいた。

2. Conductivity Anomaly 研究打ち合わせ会

平成23年度は、以下のように研究打ち合わせ会を、5月の連合大会期間中、11月のSGEPSS秋の総会及び講演会期間中に、また、平成23年12月に開催した Conductivity Anomaly 研究会期間中と、計3回開催し、観測計画等に関する情報交換を行なった。主な報告や議題に関しては第3回目のものを基に以下に示す。

第1回研究打ち合わせ会:2011年5月26日(木)

幕張メッセ国際会議場

第2回研究打ち合わせ会:2011年11月5日(土)

SGEPSS 秋学会(神戸大学)

第3回研究打ち合わせ会:2011年12月14日(水)

東京大学地震研究所

■会合

※平成24年度CA研究会は、柿岡地磁気観測所の100周年を記念して、東京大学地震研究所と京都大学防災研究所の共同利用の研究集会を活用して柿岡で開催予定

※その他、平成24年度中の国内学会、研究集会、国際学会等の情報交換

■平成24年度観測計画

※地震・火山噴火予知研究計画関連(概要)

※その他の国内での観測計画情報交換など

※海での観測・海外での観測予定など

また、第3回打ち合わせ会では、東北太平洋沖地震の発生に伴って、地球内部電磁気学分野として、今後どのような研究テーマの基に共同研究等を実施していくべきかに関して意見交換も行った。その結果、研究会の第2部として、さらにブレインストーミング的な会を開催することに決まり、世話人3名を決め、平成24年3月5日に「電気伝導度構造・地殻活動電磁気学研究の現状についての検討会（第一回）」として地震研究所で会合を持った。

CA 研究会メーリングリストおよびWEB:

メーリングリスト: CA@eri.u-tokyo.ac.jp

URL: <http://www.conductivity-anomaly-jp.blogspot.org/CAnews/>

「日本の考古地磁気学刷新をめざす基礎的研究 第3回ワークショップ」の報告

畠山唯達、渋谷秀敏、石川尚人、
山本裕二、川村紀子

去る2012年3月3日、4日に岡山理科大学で標記のワークショップが開催された。この集まりは同名の科研費の定期的な研究会としてこれまでも開催されてきた。今回は科研費の最終年度となるため、研究の総まとめと周辺領域との融合を目的として、広く地磁気・古地磁気および環境磁気を含む岩石磁気の研究者にも参加を呼び掛け、40名あまりの研究者が参加した集会になった。

日本の考古地磁気学（土器片や焼土などの考古試料を用いた古地磁気学）は古く1950年代に始まり、60年代後半から80年代にかけて大きく発展し、当時の地磁気永年変化論や年代推定法の一翼を担った。その後は各地の研究者による個々の活動が主体となり、データや永年変化モデルの見直しは停滞した嫌いがある。一方、考古地磁気学の誕生の地であり日本同様に古くから発展してきた欧州では、今世紀に入り考古地磁気の測定からデータ解析、年代推定法まで包括的に見直す作業となるAARCH計画が推進さ

れ、研究が大きく前進した。この動きをキャッチアップするため、残存試料の最新手法による再測定、強度測定など新たな考古地磁気測定の可能性の探究、既存のデータの整理とデータベース化、および、永年変化モデルの更新を目的で、2009年度から標記の研究会が立ち上がって活動をしてきた。

今回のワークショップでは、考古地磁気学に関する発表12件と周辺研究領域の発表16件、合わせて28件の発表があった。特に今回は考古学の分野から2人の専門家による招聘講演が行われた。中村浩氏（大阪大谷大学）の講演では、1960年代に盛んに発掘が行われた大阪府の陶邑（すえむら）古窯跡群（日本の考古地磁気学の原点かつ最大の貢献である）で制作された土器の型式編年法についての解説が行われた。この編年法は考古地磁気における年代の指標となるため、非常に重要な考え方である。また、亀田修一氏（岡山理科大学）の講演では、氏のグループが現在発掘している古代須恵器窯（佐山新池窯跡群）の概要についての紹介が行われた。集会の最後には、現状における考古地磁気学の問題点の整理と今後の日本の考古地磁気学の研究体制について議論がされた。

本研究集会初日の懇親会は、本科研費の代表者である鳥居雅之教授（岡山理科大学）が2011年度末をもって退職されることを記念して、鳥居教授退職記念パーティを兼ねて華やかに催された。この場では鳥居教授とともに研究して来られたさまざまな方よりのご挨拶があった。最後に鳥居教授から研究生活を振り返ったお話があり、盛り上がりながらも少ししんみりとして終了した。

最後に、本研究集会にお集まりいただいたすべての皆様に厚く御礼申し上げるとともに、今後の考古地磁気研究へのご理解ご協力をお願いして筆を置くことにいたします。



学会賞・国際交流事業関係年間スケジュール

積極的な応募・推薦をお願いします。詳細は学会ホームページを参照願います。

賞・事業名	応募・推薦／問い合わせ先	締め切り
長谷川・永田賞	会長	2月28日
田中館賞	会長	8月31日
学会特別表彰	会長	2月28日
大林奨励賞	大林奨励賞候補者推薦委員長	1月31日
学生発表賞	推薦なし／問合せは運営委員会	
国際学術交流若手派遣	運営委員会	5月11日、7月下旬、10月下旬、1月下旬
国際学術交流外国人招聘	運営委員会	若手派遣と同じ
SGEPSS フロンティア賞	SGEPSS フロンティア賞候補者推薦委員会委員長	2月28日

SGEPSS Calendar

- '12- 5-20 ~ 25 日本地球惑星科学連合大会（幕張メッセ国際会議場）
- '12- 7-14 ~ 22 COSPAR 2012 (Mysore, India)
- '12- 8-13 ~ 17 AOGS-AGU (WPGM) meeting (Resorts World Sentosa, Singapore)
- '12-10-20 ~ 23 第131回 SGEPSS 総会および講演会（札幌）
- '12-12- 3 ~ 7 2012 AGU Fall Meeting (San Francisco, USA)
- '13- 3-10 ~ 13 Chapman Conference on Fundamental Properties and Processes of Magnetotails (Reykjavik, Iceland)

地球電磁気・地球惑星圏学会（SGEPSS）

会長 家森俊彦 〒606-8502 京都府京都市左京区北白川追分町 京都大学
大学院 理学研究科附属地磁気世界資料解析センター

TEL: 075-753-3949 FAX: 075-722-7884 E-mail: iyemori@kugi.kyoto-u.ac.jp

総務 塩川和夫 〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町 名古屋大学
太陽地球環境研究所

TEL: 052-747-6419 FAX: 052-747-6323 E-mail: shiokawa@stelab.nagoya-u.ac.jp

広報 吉川一郎（会報担当） 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学
大学院理学系研究科地球惑星科学専攻

TEL: 03-5841-4577 FAX: 03-5841-4577 E-mail: yoshikawa@eps.s.u-tokyo.ac.jp

村田功（会報担当） 〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3 東北大学
大学院理学研究科地球物理学専攻

TEL: 022-795-5776 FAX: 022-795-6406 E-mail: murata@pat.gp.tohoku.ac.jp

吉川顕正（会報担当） 〒812-8581 福岡県福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学
大学院理学研究院地球惑星科学部門

TEL: 092-642-2672 FAX: 092-642-4403 E-mail: yoshi@geo.kyushu-u.ac.jp

運営委員会（事務局） 〒650-0033 神戸市中央区江戸町85-1 ベイ・ウイング神戸ビル10階
（株）プロアクティブ内 地球電磁気・地球惑星圏学会事務局

TEL: 078-332-3703 FAX: 078-332-2506 E-mail: sgepss@pac.ne.jp

賛助会員リスト

下記の企業は、本学会の賛助会員として、
地球電磁気学および地球惑星圏科学の発展に貢献されています。

Exelis VIS 株式会社
東京オフィス

〒101-0064
東京都千代田区猿樂町 2-7-17
織本ビル 3F
tel. 03-6904-2475
fax. 03-5280-0800
URL <http://www.exelisvis.com/>

エコー計測器 (株)
〒182-0025
東京都調布市多摩川 1-28-7
tel. 042-481-1311
fax. 042-481-1314
URL <http://www.clock.co.jp/>

クローバテック (株)
〒180-0006
東京都武蔵野市中町 3-27-26
tel. 0422-37-2477
fax. 0422-37-2478
URL <http://www.clovertech.co.jp/>

(有) テラパブ
〒158-0083
東京都世田谷区奥沢 5-27-19-2003
tel. 03-3718-7500
fax. 03-3718-4406
URL <http://www.terrapub.co.jp/>

(有) テラテクニカ
〒208-0022
東京都武蔵村山市榎 3 丁目 25 番地 1
tel. 042-516-9762
fax. 042-516-9763
URL <http://www.tierra.co.jp/>

日鉄鉦コンサルタント (株)
〒108-0014
東京都港区芝 4 丁目 2-3NOF 芝ビル 5F
tel. 03-6414-2766
fax. 03-6414-2772
URL <http://www.nmconsults.co.jp/>

日本電気 (株) 宇宙システム事業部
〒183-8501
東京都府中市日新町 1-10
tel. 042-333-3933
fax. 042-333-3949
URL <http://www.nec.co.jp/solution/space/>

富士通 (株)
〒261-8588
千葉市美浜区中瀬 1-9-3
富士通 (株) 幕張システムラボラトリ
tel. 043-299-3246
fax. 043-299-3011
URL <http://jp.fujitsu.com/>

丸文 (株) システム営業本部
営業第一部計測機器課
〒103-8577
東京都中央区日本橋大伝馬町 8-1
tel. 03-3639-9881
fax. 03-5644-7627
URL <http://www.marubun.co.jp/>

明星電気 (株) 技術開発本部
装置開発部
〒372-8585
群馬県伊勢崎市長沼町 2223
tel. 0270-32-1113
fax. 0270-32-0988
URL <http://www.meisei.co.jp/>